

神戸市立平野小学校

平成26年10月1日



# 学校だより



10月号

## 四季の美しさを感じる心を

9月に5年生は、ハチ高原に自然学校に行ってきました。今年は、例年に比べ朝夕が肌寒く、通常の10月ごろの気温だということでした。そんな中で5年生は、一足早く秋を肌で感じてきました。緑に囲まれた大自然の中での5日間は、自然を楽しむには十分な環境だったように思います。

1年中最も気持ちのよい季節、10月。「わあっ、きれいな空。」雲ひとつない澄みきった青空に声を上げる子供の表情はととも明るく、私の心までさわやかになります。

近年は、季節に関係なく農作物等が手に入り、昔のように季節を感じるものが少なくなったように思うのは私だけでしょうか。私たちの子供のころは、野菜にしても、春夏秋冬、旬の季節がはっきりとしていたように思います。しかし、最近では、年中、手に入れることができるようになりました。便利にはなりましたが、四季折々の自然に無関心になったように感じられ、どこか寂しさを覚えます。子供たちには、ヒトに与えられた諸感覚を働かせ、全身で秋を感じてほしいと思います。秋を感じさせてくれるものには、どんなものがあるでしょうか・・・。

夏の入道雲（積乱雲）に変わり、青空には、さば雲・いわし雲・うろこ雲（巻積雲）が姿を見せます。肌に触れる秋風は、とてもさわやかです。野山には、萩、なでしこ、ききょう、リンドウ、コスモスなどがかすかに揺れ、私たちの心を和ませてくれます。また、どこからか金木犀の甘い香りも漂ってきます。雲のない夜には、たくさんの星が輝きます。日中のせみの鳴き声に変わり、夜、耳を澄ませば、虫の大合唱が聞こえてきます。秋が深まれば、山々が色鮮やかにそまります。「実りの秋」の言葉どおり、柿・栗などは実をつけ、稲は穂を垂れ、収穫後は私たちの味覚を楽しませてくれます。

いつもは忙しさに追われ、気にも留めなかったのですが、ちょっと立ち止まれば、私たちは、多くの美しい自然に囲まれて暮らしていることに気がつきます。春・夏・秋・冬、四季折々の美しさを楽しむ心のゆとりを持ちたいものです。心地よいこの時期、野外で過ごす方も多いことと思います。そんな時、ちょっと辺りの自然に目を向けてみてはどうでしょうか。きっと、新しい発見があることと思います。自然は、私たちの心にゆとりを与えてくれます。道端にそっと咲く一輪の花、遠くで聞こえる小鳥のさえずりなど、四季折々の自然の美しさを感じる感性豊かな子供に育ててほしいと願っています。

校長 小川 信子